平成21年度全国高等学校総合体育大会
サッカー競技大会

【54】決勝

日時	平成21年8月8日(土)17:00	試合形式	70分 延長20分 PK戦	会場	奈良県立橿原公苑陸上競技場
天候	曇り	気温	36℃	湿度	53%
風	微	ピッチ状態	天然芝 / 全面良芝	観客数	3200人

マッチインスペクター	横田 智雄	副審1	岡 宏道	第4の審判員	篠藤 巧
主審	牧野 明久	副審2	吉田 哲朗	記録担当	高橋 良典

校名	都道府県				校名	都道府県
前橋育英	群馬県	2	1 前半 0	0	米子北	鳥取県
			1 後半 0			
			延前			
			延後			

Kick off

No	PK方式		No
○×	0	0	○×

交代 番号	交代 時間	シュート 延前	シュート 延後	シュート 後半	シュート 後半	シュート 前半	シュート 前半	得点	学年	選手名	番号	位置	位置	番号	選手名	学年	得点	シュート 前半	シュート 前半	シュート 後半	シュート 後半	シュート 延前	シュート 延後	交代 時間	交代 番号
									3	志村 智久	1	GK	GK	1	真田 聖大	3									
									3	小山 真司(Cap.)	2	DF	DF	3	庫谷 隆広	2									
									3	田中 雄一	3	DF	DF	4	山内 拓哉	3					1				
									3	代田 敦資	4	DF	DF	16	昌子 源	2					2				
	24								3	細萱 翔太	5	DF	DF	5	谷田 直宏	2									
	66			1					3	中美 慶哉	7	MF	MF	6	林原 一樹	3									
									3	木村 高彰	6	MF	MF	8	五百川 雄太	3		1						HT	
	69							1	3	三浦 雄介	8	MF	MF	14	藪田 貴大	2		1	1		1			54	
									2	小島 秀仁	14	MF	MF	10	大江 創太(Cap.)	3									
									3	皆川 佑介	10	FW	FW	9	谷尾 昂也	2				2					
					1			1	3	西澤 厚志	13	FW	FW	11	山本 大稀	3		1			1			57	
									1	川原 雅之	12	GK	GK	17	山田 長政	3									
8									2	北爪 健吾	17	DF	DF	2	現銀谷 諒	3									
									3	上星 脩太	9	MF	DF	7	村岡 拓也	3									
11									2	湯川 純平	16	MF	DF	15	道下 稔晃	2									14
5	61				1				3	粕川 正樹	11	FW	MF	12	川元 徳馬	2									8
7									2	小牟田 洋佑	15	FW	FW	13	山本 健太郎	2						2			11
				3		1		小計	4	シュート合計				13		小計		6		7					

警退	時間	No	氏名	内容	計	延長	後半	前半		前半	後半	延長	計	警退	時間	No	氏名	内容
警	69	16	湯川 純平	ラフ	4		2	2	GK	2	3		5					
					2		1	1	CK	2	2		4					
					6 4		2	2	直接FK	2	6		8 11					
					2		2	0	間接FK	2	1		3					
					0		0	0	PK	0	0		0					

得点経過 (凡例: ～ドリブル、 →ゴロのパス、 ↑浮球のパス、 ×混戦、 Sシュート、 Hヘディング)

時間	チーム名	No.	得点者	No.	アシスト	得点経過									
4	前橋育英	8	三浦 雄介	3	田中 雄一	左1	3	↑	中央1	こぼれ球	8	S			
46	前橋育英	13	西澤 厚志	3	田中 雄一	右CK	3	↑	中央1	10	H	↑	中央1	13	HS
				10	皆川 佑介										

【戦評】 記載者 膳亀 信行 (静岡県立静岡 高等学校)

真夏のチャンピオンを決めるこの一戦は、前橋育英4－4－2中盤ボックス、米子北4－4－2中盤フラットのシステムで始まった。立ち上がり、左からのクロスのこぼれ球をMF⑧三浦が見事なボレーシュートを決め前橋育英が先制した。先制を許した米子北だが、慌てる事なく、3ラインをしっかり作りスペースを消し、狙いを持ってボールを奪い、そこからFW⑨谷尾に合わせファーストブレークからチャンスを作り対抗した。後半に入り、米子北はFW⑪山本が起点となり、積極的に前へ出て来た。前橋育英は、単調な攻めが目立ったが、慌てる事なくゲームを進め、CKから追加点を奪い、完全にペースを握った。決勝まで進んだ米子北のラインの作り方と、守から攻の速さは見事であったが、攻撃のバリエーションがもう少し多ければ、もっと素晴らしいチームになるだろう。優勝した前橋育英は、個のポテンシャルが高い選手が多く、攻守のバランスに優れ、優勝するにふさわしいチームであった。ただ、ゲーム終盤になるとプレーの質が落ちる時間帯が見られた。今後のその点を修正することができれば、さらに強力なチームへと成長するであろう。